

岡山アクセントと共通語

東大教養学部二年生 金谷 健一

私は東京に出て来てから二年になるが、最近になって、岡山アクセントと共通語のアクセントとの違いが、かなり大きいのに驚いている。文献を調べたり、東京の友人の言葉を聞いて、その違いがかなりわかるようになった。学問的には、岡山県は、東京第二種と呼ばれて、東京と同じことになっているが、このことは、東京と岡山のアクセントが同じだという誤解を与えているのではないかと思う。岡山の人で、岡山弁と言われる用語、言いまわし方を東京式にあらためて、それで標準語を話していると思ひ込んでいる人もある。実は標準語には次のような違いがある。「岡山アクセント」は私自身の解釈だから、異説を唱える人もいるかも知れないが、それは許していただきたい。

一、普通名詞

1. 名詞そのもののアクセントが異なっているもの。(以下、例語は共通語、傍線はアクセントを示す。) イタ(板) マクラ(枕) フク(服) ヒル(昼) ナツ(夏) ミドリ(緑) リンゴ、ミカン、タマゴ、キノコ等々

2. 平板型 (格助詞「が」をつけたとき「が」が高く発音さ

れるもの)に副助詞の「も」は高く発音される。下がるのは

岡山独特で奇異。エーゴが(英語) ↓エーゴモ (×エーゴモ)

ワタシガ ↓ワタシモ (×ワタシモ)、キミモ、トモダチモ、

ウシモ(牛も)、ウサギモ

3. 格助詞「の」が、語尾の高い名詞につくと「の」が高くなる

ことが多い。ヤマガ(山) ↓ヤマノフモト、ハナガ(花)

↓ハナノクビカザリ、ヤスミノヒ(休日)、オトコノヒト

(男)、オンナヒト(女)、キノーノコト(昨日)、ニホン

ノクニ(日本)等々。

4. 副助詞の「しか」「だけ」「ほど」「きり」などは常に平

らで、シカ、ダケ、ホド、キリ、などの言い方はない。ソレシ

カナイ(×ソレシカナイ) キミダケニイオウ(×キミダケ)

等々。

二、代名詞、指示語

1. 指示代名詞、指示副詞はすべて平板型である。ソコデ(場所、時とも) (×ソコデ)、アレハ(×アレハ)、ソシテ(×ソシテ)、等々。

2. 疑問詞にすべて、第一音節にアクセントがある。ダレガ、ドコデ、ナニヲ、ドウシテ、ドノヨウニ、イクラデ、イクツ、等々。(ダレガ、ドコデ、ドウシテ……………)

三、固有名词

1. 人名

- ① 形容詞、形容動詞から出た名はすべて第一音節にアクセントがある。ヒロシ、ヤスシ、ツヨシ、タケシ、(×ヒロシ、ヤスシ……)

- ② 三字の名で最後がエ、ヨ、オ、ヤ、などの場合は最後まで高い。カズエ、マサヨ、トシオ、(×カズエ、マサヨ、トシオ)

- ③ 子、二、郎、などで終わる三字の名は最初にアクセントがある。ケイコ、ケンジ、タロー、(×ケイコ、ケンジ、タロー)

- ④ 一、作などで終わる四字の名は最後まで平たんである。

ケンイチ、エイサク、(×ケンイチ、エイサク)

2. 地名

- ① 多くは最初が高い。フジタ、オカ、アキタ、イセ、オカヤマ、クレ、(×フジタ、オカ、アキタ、イセ、オカヤマ、クレ)

- ② 君をつけたとき、平板型の場合最後まで高い。ナカムラクン、ササキクン、(×ナカムラクン、ササキクン)

四、外来語

日常よく使われる語はしりあがりになることが多い。ボール、ガラス、アメリカ等

五、数 字

1. 和語 注意すべきもの、フタツ、ミツツ、ヨツツ、ムツツ、ヤツツ (×フタツ、ミツツ、ヨツツ……)

2. 漢語 注意すべきもの、ニジュー、サンジュー、ヨンジュー、キュー、ジュー、ヒヤク、ニヒヤク、ゴヒヤク、ロツビヤク、ハツビヤク、(×ニジュー、サンジュー、ニヒヤク……)

3. 組み合わせ フタリ、ゴメイ、サンニン (×フタリ、ゴメイ、サンニン) その他複雑ですべて列挙できない。

六、動 詞

1. 動詞の終止形自体のアクセントが異なるもの若干 ガエル (帰る) その他

2. 打消の助動詞「ない」がついたとき、○○ナイという形はない。常に平たんである。

- ① 終止形の語尾が上がる動詞は○○ナイとなる。シル (知る) ↓シラナイ (×シラナイ)、ユク (行く) ↓ユカナイ (×ユカナイ)、イル ↓イナイ、スル ↓シナイ、イウ ↓ウナイ 等々。

- ② 終止形の語尾がさがっていればナイは低い。シル (見る)

↓ミナイ (×ミナイ)、ワカル↓ワカラナイ、タベル↓タ
ペナイ、ナラウ↓ナラウナイ等々。

3. 接続助詞「ながら」が、語尾のあがる動詞につくとナガラ
になる。イル (居る) ↓イナガラ (×イナガラ)、シル↓シ
リナガラ、ユク↓ユキナガラ、イウ↓イイナガラ等。

4. 接続助詞「だけ」は常に平らで、決してダケとならない。
ヤルダケ、スルダケ、タベルダケデ、ミルダケダ (×ミルダ
ケダ)

5. 助動詞「たい」が、語尾のあがる動詞につくと、タイとな
ってタイとはならない。シリタイ (×シリタイ)、ユキタイ
(×ユキタイ)、シタイ、イイタイ等。

七、形容詞

1. 終止形が異なるもの。岡山では形容詞はすべて——タイの
形であるが、標準語には——タイと——タイと二種類ある。

後者の例 アツイ (厚い、熱い) はアツイ、ツメタイ、アカ
イ、ヤサシイ、ムスカシイ、アヤシイ等。

2. 1. で述べた型、平板型の活用は次の通り。厚い↓アツカ
ロ、アツク、アツカッタ、アツクテ、アツケレバ、遅い↓オ
ソク、オソカロー、オソク、オソカッタ、オソクテ、オソケ
レバ 例 ハナハオソカッタ

3. 形容詞に「ほど」「だけ」がついたらどんな場合でも平ら
にいう。語尾が高ければ全体に高くなる。ヤサシイホドヨイ、
ツメタイダケダ、(×ヤサシイホド、ツメタイダケ)

八、副詞

1. 岡山では語末の下がるものが平板になることが多い。

① 同じような語がならんだとき、イロイロノ、ナカナカノ、
(×イロイロ、ナカナカ)、ダンダン、モクモクト等 (ト
がなくても同じ)

② 「然」のつくもの。トツゼン (×トツゼン)、セイゼン
ト、ユーセント等

③ その他 カナラズ (×カナラズ)、キツト、タクサンア
ル (タクサンアル)

2. 擬声、擬態語で語頭にアクセントのあるものがある。キラ
キラ (×キラキラ)、ツルツル (×ツルツル)、ジタバタ、
ヤキモキ

九、形容動詞

一般に平板である。セイカクナ (×セイカクナ)、キューソ
クニ (×キューソクニ)、カンタンナ (カンタンナ)、メーカ
クナ、等。

十、複合語、特に動詞+動詞

1. 前の動詞の語尾があがっていれば（平板型ならば）、全体が高く、最後が下がる。ネル↓ネナオス（×ネナオス）、フル↓フリダス（×フリダス）

2. 前の動詞の語尾が下がっていれば、全体が高く続く。フル（雨が）↓フリダス（×フリダス）、カンガエル↓カンガエナオス（×カンガエナオス）

以上が共通語アクセントが、岡山のと違う点であり、かなり大きなものであることがわかる。特に、平板な共通語に対し、岡山アクセントの起伏が目だつ。これらに注意すれば、岡山県人はすぐばれてしまう。最後に例文をのせておわることしよう。（小学校の教科書より）

梅子が二才のとき、梅子の父は、福沢諭吉らとアメリカにわたった。初めて接した外国の地で、かれは、男も女も、平等であるということを知った。そうして、かつて梅子を女だということとで差別して考えていた自分を、はづかしく思った。梅子を新しい時代の日本の女性として育てたいと願ったのは、それからである。

ウメコガ ニサイノ トギ、ウメコノ チチハ フクザワユキ
チラト アメリカニ ワタツタ。ハジメテ セツシタ ガイコク
ノ チデ カレハ、オトコモ オンナモ ビョードーデアルト
イウ コトヲ シツタ。ソーシテ、カツテ ウメコヲ オンナダ

ト イウ コトデ サベツシテ カンガエテイタ ジブンヲ ハ
ズカシク オモツタ。ウメコヲ アタラシイ ジダイノ ニホン
ノ ジョセイトシテ ソダテタイト ネガツタノハ ソレカラデ
アル。

家屋について思つたこと

東京大学法学部二年 片岡 順

みなさんご存じのように日本の家屋は木と土と紙からできています。最近では洋式をとりいれた家屋もかなり見うけられます。しかし何と言っても圧倒的多数は昔のままのいわゆる日本式家屋です。衣食住のうち衣は明治以来ほとんど洋式化され、食もかなり洋式化されました。それにもかかわらず住だけはほとんど変わっていません。これはひとつには家屋の耐久年数が長いことにもよるのでしょうが、それにもまして日本人の家庭生活が従来のままであることによります。そこでこのように深く根をおろしている日本式家屋について考えてみたいと思います。

まず欧米の家屋と比べると気がつくことは、日本の家屋は土足で上がれないということです。これにタタミのしかれた日本の